

【原著論文】

多面的な思考を促す理科授業に関する研究 —高等学校「化学」における生徒による相互評価を通して—

上村 礼子*1・雲財 寛*2・稲田 結美*2・角屋 重樹*2

*1 日本体育大学大学院教育学研究科博士前期課程

*2 日本体育大学

本研究では、高等学校化学の授業において、実験レポートの内容に対する相互評価と自己評価を導入することで、生徒の多面的な思考が促されるかを明らかにした。具体的には、「無機物質」の単元の4回の実験後に、実験レポートへの相互評価を受けたうえで、自己評価を記述させ、その記述内容を分析した。その結果、相互評価活動を繰り返し実施することによって、「新たな視点への気づきや変換」、「新たな取組みについての発想の広がり」、「自己の取組みの改善点の指摘」といった多面的な思考が見られる記述が増加した。加えて、他者との関わりを意識した記述も見られ、実験レポートに対する相互評価活動によって、生徒の多面的な思考が促されることが示唆された。

キーワード：他者との関わり，相互評価，多面的な思考